



東御市の環境樹

東御市の目指すべき将来(10年後)の環境像

東御市の環境樹

東御市では、市の10年後の目指すべき環境の将来像を「『水と緑と人の和』をはぐくみ、未来へ伝える さわやかとうみ」として掲げ、自然環境、生活環境、都市環境、地球環境、環境教育の5つの分野で市民・事業者・行政それぞれが環境の将来像を達成できるように取組みを推進することとしています。

下図の環境樹に示された将来像を達成するために、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を認識し、個々の取組みを進め、東御市の環境樹を育てていきましょう。

環境樹とは...

環境樹(エコツリー)とは、地域の環境づくりを「樹」にたとえて分かりやすく説明する手法です。千葉商科大学の三橋規宏教授が、著書「日本経済グリーン国富論」で提唱した概念で、私たちが目指そうしている地域の環境像の全体が一目で理解でき、それぞれがどのような部分で参加、協力しているのかが分かるようになっています。

豊かな自然と農業を守り、水と緑を大切にすまちをつくりまします。
(里山・森林の保全、水域や生態系の保全、環境に配慮した農業の推進)

生活環境が守られ、安全で健康にすこせるまちをつくりまします。
(公害対策の推進、マナー・モラルの向上、公共交通対策、防犯・防災対策の推進)

地球環境に配慮し、資源を大切にすまちをつくりまします。
(循環型社会の形成、新エネルギー・循環資源等の活用、地球温暖化対策の推進)

安らぎの文化と景観に親しみ、潤いのあるまちをつくりまします。
(緑化の推進、景観保全、土地利用、歴史・文化的資源の保全)

ひとをはぐくみ、積極的に環境活動に参加できるまちをつくりまします。
(環境教育の推進、環境ボランティア活動の推進、外国人に対する情報提供など)

